

プレスリリース

2013.5.13

佐賀大学をハブに、九州大学・長崎大学・熊本県立大学の4大学が連携して、有明海地域共同観測(略称:COMPAS)を開始します。

報道関係者 各位

平成 25 年度から、文部科学省特別経費による支援の下、6年間の予定で有明海沿岸4県の大学が連携した「ハブ型ネットワークによる有明海地域共同観測プロジェクト」を開始します。プロジェクトの概要は別紙をご覧ください。

COMPASとは、COrporate Monitoring Program of Ariake Sea の略です。

本プロジェクトの第 1 回全体会議を、5月11日に佐賀大学で行い、今後の研究計画などについて話し合いました。貧酸素を代表とする環境問題、二枚貝漁業の極度の不振、諫早開門問題、未知の部分が多い干潟の科学などが複雑に絡み合っただ混沌とした海の中、我々は地域の大学として、行政・漁業者、一般の地域市民が問題解決のゴールを目指す際の羅針儀(コンパス, compass)の役割を果たしていきたいと考えています。なお、来る7月6日(土)には、佐賀大学で本プロジェクトのキックオフシンポジウムを開催予定です。

つきましては、本プロジェクトについて、より広く周知するため貴紙においてご紹介いただければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

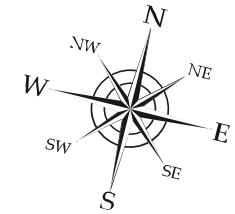
◎ 問い合わせ先

〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町 1

佐賀大学低平地沿岸海域研究センター事務 電話・Fax:0952-28-8846

あるいは 低平地沿岸海域研究センター准教授 速水祐一 28-8499

有明海地域共同観測プロジェクト「COMPAS」
(Corporate Monitoring Program of Ariake Sea)



開門をめぐる争いの海から、地域が連携した内湾環境・漁業の再生を目指すモデルケースに向けて！ 沿岸4県の大学間連携から。

参加機関：佐賀大学*・九州大学・長崎大学・熊本県立大学
*ハブ機関

予算：文部科学省特別経費「ハブ型ネットワークによる
有明海地域共同観測プロジェクト」

期間：平成25～30年（6年）

予算：64,564千円（H25年度）
（うち運営交付金30,600千円）

＜事務局＞

佐賀大学 低平地沿岸海域研究センター
〒840-8502 佐賀市本庄町1番地

Phone/Fax 0952-28-8846

e-mail: ariakeinfo@ml.cc.saga-u.ac.jp

事務局長 速水祐一（センター 准教授）

背景

継続する有明海の「環境異変」
(貧酸素・赤潮・二枚貝の漁獲低迷・ノリ色落等)

有明海・八代海再生特別措置法の改正→平成23~33年

「諫早湾中長期開門」実施予定
・潮汐振幅の極大⇒環境改善?

目的

有明海研究の拠点形成

諫早中長期開門・潮汐振幅長期変化の影響を含め、有明海の環境変動機構の解明

開門の影響

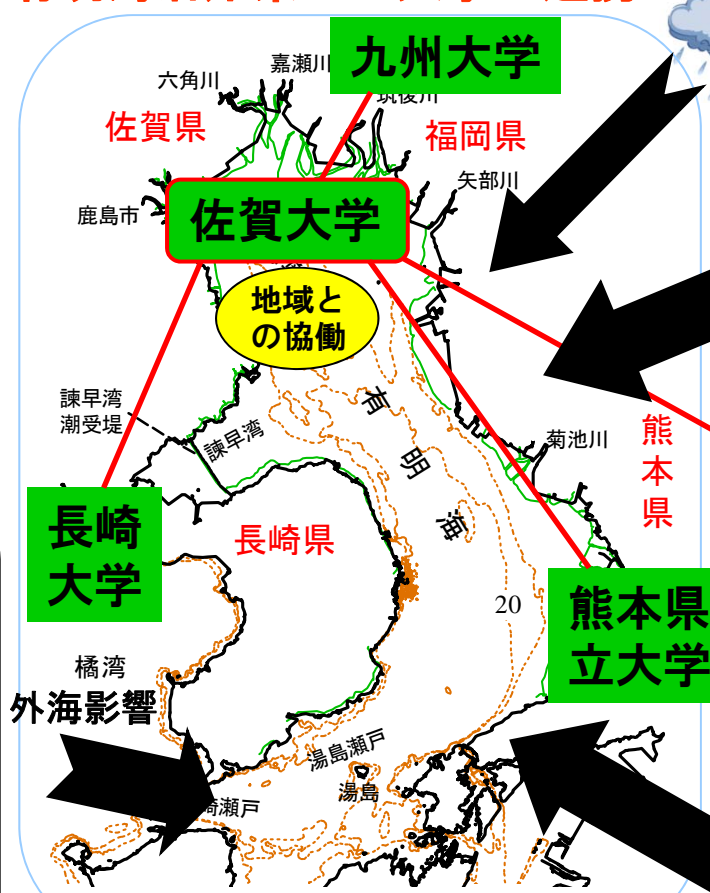
→第三者的立場から科学的に解釈

環境再生策の検討

教育への反映・活発なアウトリーチ活動の展開

環境再生に向けて地域の様々な主体の協働を促す

佐賀大学がハブとなり 有明海沿岸県の4大学が連携
気象・気候変動



月の昇降点位置変化によるM2潮汐振幅の18.6年周期変動

平成27年に極大

↓

環境改善効果大きいと予想される

その他の大学・研究機関の個別研究者

本プロジェクトの重要性

- ・有明海の環境問題の解明・解決
→地域の高いニーズ
- ・開門実施→環境再生に繋がるかどうか、学術的に確かな解釈!



諫早湾中長期排水門開門
H25年末で判決確定から3年
H25~30年には中長期開門

「COMPAS」コア研究者(合計20名)

2013.5.11

代表：井嶋克志 佐賀大学低平地沿岸海域研究センター センター長・教授

1. 山西博幸	佐賀大学	低平地沿岸海域研究センター	教授
2. 日野剛徳	佐賀大学	低平地沿岸海域研究センター	教授
3. 速水祐一*	佐賀大学	低平地沿岸海域研究センター	准教授
4. 片野俊也	佐賀大学	低平地沿岸海域研究センター	准教授
5. 濱田孝治	佐賀大学	低平地沿岸海域研究センター	准教授
6. 末次大輔	佐賀大学	低平地沿岸海域研究センター	准教授
7. 吉野健児	佐賀大学	低平地沿岸海域研究センター	特任助教
8. 藤井直紀	佐賀大学	低平地沿岸海域研究センター	特任助教
9. 新井康平	佐賀大学	工学研究科	教授
10. 檉澤秀木	佐賀大学	経済学部	教授
11. 五十嵐 勉	佐賀大学	全学教育機構	准教授
12. 小松利光	九州大学	工学研究院	特命教授
13. 矢野真一郎	九州大学	工学研究院	准教授
14. 田井 明	九州大学	高等研究院	助教
15. 松永信博	九州大学	総合理工学研究院	教授
16. 山口創一	九州大学	総合理工学研究院	助教
17. 堤裕昭	熊本県立大学	環境共生学部	教授
18. 小森田智大	熊本県立大学	環境共生学部	助教
19. 梅澤 有	長崎大学	水産環境科学総合研究科	准教授
20. 和田 実	長崎大学	水産環境科学総合研究科	准教授

(*事務局長)

●4大学が人・インフラ・技術を持ち寄ることで、より広範囲・高精度で総合的な調査研究を実現！

これまで有明海で調査研究の実績がある研究グループで構成
⇒継続的・組織的モニタリングで、潮汐の長期変化*, 諫早開門, 外海水の影響の経年変化などが内湾生態系に与える影響を解明！

開門実施の場合: その影響を科学的に分かりやすく市民に伝える。立場が異なる4県の大学が連携することで、中立性・客観性を担保。

一方で、積極的なアウトリーチ活動と市民参加促進等を通して、地域の様々な主体による有明海再生に向けた活動を支援。

主要観測点

- 佐賀大学沿岸係留観測 (予定)
- 九州大学流速観測
- ◆ 熊本県立大学
- ▼ 長崎大学
- 佐賀大学

